

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中央小学校	校長	有崎 美紀	生徒指導主事	由田 紀子
取組事例名	『はちの子デー（縦割り遊び）』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
学年や学級が異なる児童と楽しく触れ合い交流することによって、人間関係を広めたり深めたりして、自己認識力を高める。また、リーダーシップや所属意識を高める。	高学年は、リーダーとしての自覚や自信をもって活動し、下学年に優しく接する。 中学年は、協力して活動に取り組む。 低学年は、ルールを守って活動を楽しむ。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
○全校児童を縦割りにする。（5月） 1つの班が13～16人。（兄弟関係や人間関係に配慮する。） ○日常活動として縦割り掃除を行う。 ○計画的に年に5回行う。 ○「はちの子デー」 ・事前に縦割り班ごとの話し合いの時間をもつ。 ・6年生が1年生を迎えに行く。 ・集合場所に集合する。 ・6年生がリーダーとなって会を進める。 ・放送がかかったら、班ごとに振り返りをして、教室に戻る。 ・リーダーは担当の先生に報告する。 （担当の先生は、うまくいかなかったことへのアドバイスをしたり、よかった関わり方を価値付けたりする。） ○最後の「はちの子デー」は、5年生がリーダーとなり、班のみんなで6年生にメッセージを書く。	児童にめあてをもたせるために 事前に、「はちの子デー」に向けての話し合いをする時間を確保し、班ごとに6年生がリーダーとなって、めあてや内容、準備物を確認する。 児童の意欲を高めるために 6年生はリーダーとしての、5年生はサブリーダーとしての意識をもたせ、下学年をリードしていく声かけをする。下学年は「どうしたらみんなが楽しく過ごせるか」「仲が深まるか」を意識した声かけをする。 児童の頑張りを認め、価値付けるために 活動の終わりに班ごとにめあてを振り返る時間を持ち、自己評価や他者評価を行う。担当教員は、児童の思いやりのある行動や声かけを見つけたら、その場で何がよかったのかを価値付ける。また、そのことを担任に伝え、担任からも価値付けるようにする。また、高学年に対しては、リーダー、サブリーダーとしての関わり方について、よかった点を価値付ける。



3 成果と課題

4月、7月、12月の児童アンケートで自己肯定感の数値は、77.5%から77.3%、77%と下がってしまった。風邪の流行等により、計画していた5回の「はちの子デー」を中止したり延期したりしたため、数値が上がらなかったのではないかとと思われる。6年生だけを見ると、83.8%、85.6%、86.2%と上がっている。6年生は中央小のリーダーとして日々リーダーシップを発揮しているからだと思う。また、日常生活の中でも、休憩時間に異学年と一緒に遊んだり、困っている下学年に高学年が優しく声をかけたり、手を差し伸べたりする姿が見られる。高学年が下学年の「憧れのリーダー」となっている。